

(款) 45土木費 (項) 15河川費 (目) 10河川維持費

◎河川・雨水施設維持の経費

雨水施設維持管理事業

【 河川課・浄化センター 】

【総合計画上の位置づけ】

安全で快適な生活が送れるまち

下水道・河川:公共下水道の整備や良好な水辺環境の実現が図られているまち

【事業の目的】

対象 市民等

意図 大雨や台風による洪水や溢水から市民等を守るため。

効果 雨水調整池やゲート類等の雨水排水施設について、良好な状態を保持する。

【事業の内容】

(1) 雨水施設維持管理事業

- ・雨水調整池(玉縄・台・腰越・笛田・ハイランド・岡本・城廻)やゲート類等の雨水排水施設について、良好な状態を保持するため、定期点検等を実施した。

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
14,292	14,292	11,569		2,723

主な支出内訳

・雨水施設維持管理事業

雨水調整池光熱水費	4,111
雨水調整池管理施設突発的修繕料	1,019
雨水調整池自家用電気工作物等点検手数料	1,711
雨水調整池ポンプ機器総合点検等業務委託料	3,540

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 都整-26 雨水施設維持管理事業 □支援部門						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	1146 雨水施設維持管理事業					
主管課	河川課	関連課	下水道課、総合防災課				
分野名	下水道・河川						
目標 (目標値)	大雨や台風による洪水や溢水から市民の生命や財産を守る。						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運営資源 状 況	決算値	11,569千円	13,397千円	16,461千円			
	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)	11,569千円	13,397千円	16,461千円			
	人員配置数	1.2人	1.2人	0.8人			
	人 件 費	10,840千円	11,035千円	7,334千円			
協働の パートナー	神奈川県・横浜市	神奈川県・横浜市	神奈川県・横浜市				
事務事業 運営経費	総事業費	22,409千円	24,432円	23,795円			
	市民1人当 りの経費	127円	139円	136円			
	対象者1人 当りの経費						
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※	※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
雨水調整池の点検	◎	目標値	7箇所	7箇所			
		実績値	7箇所	7箇所			
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
講習会(玉縄交流センター消防訓練)	◎	目標値	2	2			
		実績値	2	2			
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している							
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・雨水調整池やゲートなどの施設を、常に能力を発揮できる良好な状態に保持しておく必要がある。 ポンプ排除方式の雨水調整池は、建設後10年以上経過しているため、情報機器類の旧式化や老朽化が見受けられる。良好な維持・管理を行う上で、機器類の更新などが必要となるが、多大な費用が嵩む。 ・機器類の延命化を行っているが、限界があり更新・取替が必要である。既定予算の範囲で機器の性能を十分に発揮することが困難となりつつあり、近年の都市型水害や大雨等の被害を防止できなくなるおそれがある。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・七里ガ浜浄化センターの電気・技術職の協力を得ることにより、機器類の応急的な延命化を図った。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・機器類の延命化を行っているが、限界があり更新・取替などが必要である。既定予算の範囲では機器の性能を十分に発揮することが困難となりつつあり、近年の都市型水害や大雨等の被害を防止できなくなるおそれがある。
	今後の方針 (対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・都市型災害や台風時に、雨水調整池(自然流下方式・ポンプ排除方式)が正常に稼働できるように施設改修及び維持管理のコスト意識を考慮しつつ進める。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	雨水調整池やゲート類等の管理施設の特殊性から施設の老朽化に伴う点検等維持管理に要する経費の増大は避けられない状況にあることから、事業の拡充・拡大を図る。		
担当課長氏名:	河川課長 稲葉博行		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	管理施設の維持管理について、計画的に推進する。		
担当部名	都市整備部	部長名	高橋 洋